

国際芸術祭会場のまちの歴史と文化

一宮市・常滑市・名古屋市の有松

国際芸術祭「あいち2022」の会場となっている一宮市と常滑市、名古屋市の有松は、織物や焼物、絞りのまちとして発展してきました。ここでは、それぞれの歴史や文化、特徴的な資料や物産を紹介します。

★学芸員が案内する芸術祭のまち

- ①一宮編 9月25日(日)
- ②常滑編 10月1日(土)
- ③有松編 10月9日(日)

内容 「まち」歴史「産業」などの切り口で、学芸員が芸術祭のまちをご案内します。

集合場所 現地集合・解散 時間 9:30~16:00

参加費 5,000~10,000円程度

※織物(弥生機)・有松絞(風呂敷)・焼物(鱧)の体験費用・入館料、食代など

募集人数 10名(先着) 申込方法 資料館(0586-62-9711)へ電話



起 まちあるきマップ

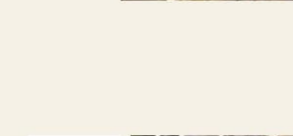
資料館のある「起」というまちには、400年以上前から、東海道と中山道を結ぶ重要な街道「美濃路」の宿として発展してきました。現在のバス通りには昭和28年(1953)6月1日に休止になるまで敷真縁(昭和3年から起線)という軌道が走っていました。翌年バスにかわり、現在に至っています。

起のまちの中で、歴史を発見してみるのも楽しいです。



国登録有形文化財(建造物) 旧湊屋文右衛門邸(淡屋) 起造船場の前にある旧淡屋文右衛門邸は、明治24年の瀬尾地震に耐えた建物で、国登録有形文化財(建造物)として登録されています。現在、食事ができるカフェとして活用され、コソートなどもおこなっています。

営業/水・土・日・祝日 10:00~15:00



旧 田内毛織 (シワスハース 起sov) 田内家住宅では、書院座敷、洋室・蔵を活用して作品展が開催されています。展示日程や作家の方々の情報については、QRコードからアクセスしてご確認ください。

※マップ提供:尾西商工会 ※尾西商工会提供地図に、一部情報を加しました。※掲載情報の詳細は個別にお調べいただくか、資料館受付にてお尋ねください。

夏休み子ども企画

君は発見マスター!!

資料館本館展示室や旧林家住宅にかくれている資料館キャラクター「たびぞう」を探し出そう! ワークシートを使いながら資料を発見していく、子ども向けプログラムです。(所要時間30分程度)

日時 7月16日(土)~10月10日(月・祝)
9:00~17:00(入館・旧林家住宅見学は16:30まで)
休館日/毎週月曜日(7/18・9/19・10/10は開館)
7/19(火)・8/12(金)・9/20(火)

会場 一宮市尾西歴史民俗資料館本館・旧林家住宅

対象 小学生 参加費 無料



ぼくを見つけてね!

TEL 0586-62-9711 一宮市尾西歴史民俗資料館

新型コロナウイルス入浴実習のために 新型コロナウイルス入浴実習の拡大防止のため、入浴中止になる場合があります。おまかせの際は、資料館(0586-62-9711)までお問い合わせください。資料館(0586-62-9711)までお問い合わせ

入館料 大人500円(15歳以上) 小人200円(6歳以上15歳未満) 無料
休館日 毎月第2月曜日 (例)7月15日(土)~15日(日) (祝日の場合は直後の平日)
開館時間 9:30~17:00(最終入館16:30) ※8月13日~15日は9:30~21:00
TEL: 0586-51-7105



会場案内

入館料 無料
休館日 祝日の翌日(土日または祝日の場合は開館) 月曜日(祝日にあたる場合は開館)
開館時間 9:00~17:00 (入館・旧林家住宅見学は16:30まで)
TEL: 0586-62-9711



一宮市尾西歴史民俗資料館・旧林家住宅

入館料 無料(カフェスペースに展示) 休業日 なし
営業時間 10:00~17:00
TEL: 0586-63-1120



ウツノサライバーウツノイチョのみや-新-

美濃路みちおこしプロジェクト =

木曾川アート トライアングル

Art Triangle Kisogawa

交錯するアート — 日々の景色から見えるもの —

2022.7/30(土) ▶ 10/10(月・祝)

STILLALIVE 国際芸術祭 2022

「成長の軌跡」富嶽祥子



「memento」/森「2022」和紙、木、透明水彩顔料、胡粉ほか
memento(メメント)とはラテン語で「記憶している」という意味があります。森深く川が流れ、風が張り花が舞うそんなすべての記憶の記録を、この旧林家住宅の中に庭園のように設けました。

マスナリ リョウコ Ryouko Masunari

名古屋在住 美術家
愛知県立芸術大学 美術学部卒業
2021 OHANA10-ten(名古屋/5/R Hall&Gallery)2020〜
各界会報(愛知県美術館ギャラリー)2021〜
〜byyou〜本誌と外連の記録〜(名古屋/アートフィールドギャラリー)
第95回岡山愛媛作家展・岡山秋季展(岡山/徳都美術館)
アートボード展2021(名古屋/5/R Hall&Gallery)
2022 白い世界ー糸から紡がれる(名古屋/「Linne」Lauren)
開展「アツ新人賞」アツ奨励賞2017〜
開展2019、2020(名古屋)、2021(愛知)

前期 旧林家住宅 後期 138タワー、ウッドデザインパーク



「或しの軌跡」2021(針糸)糸
糸の一本一本が皿となり糸をもって身体中を駆けめぐり包みこむ。

宮崎 祥子 Sachiko Miyazaki

一宮市在住 造形彫刻作家
2016 「for beautiful human life vol.4」アートフィールドギャラリー/名古屋
2017 「それでも涙が喉に刺さる出現」(AmiMo(s) のこざりニ)一宮市電柱
2020 わたし的一点「つながる所展」篠原市/一宮市
2021 旧林家住宅の常設スペース「旧林家住宅」一宮市

前期 旧林家住宅 後期 ウッドデザインパーク



「いのちであい」土、大きさW22xH14cm 2022年
いのちに触れ感じながら自然と作りの試行錯誤して作品が生まれました。

兼藤 忍 Shinobu Kanetuji

豊橋市在住 現代彫刻作家
国民間工芸室やアトリ工廠行徳陶芸研究所(徳山)で陶芸を学び、1997年初彫刻
2020 「呼吸器」(名古屋) 名古屋市
2021 「いのちのおとをこらえて」(名古屋)
2021 「まぼろしのおとをこらえて」都市型アートイベント-sebano(豊橋市)

前期 旧林家住宅 後期 138タワー、ウッドデザインパーク



「くさびのざわり」キャンバスに油絵

中谷 ゆうこ Yuko Nakaya

愛知県東郷町在住 現代美術作家
2002 調展 清原市はるひ美術館
2001・2003 はるひ絵画ビエンナーレ/愛知県・奨励賞
2005 VOCAL展/上野の森美術館、画廊 キャラリエ/東京
2011-2013 TRUC TROC展 ポリール/ベルギー
2014 愛知教育文化財団第25回個人助成
2015 ファン・デン・ナゴヤ芸術祭/名古屋
2016 ポジション展/名古屋市美術館、調展 スチウートギャラリー/アメリカ
2011・2017 調展 アリエルドー・テレーズギャラリー/ベルギー
2018 調展 無我新 科学たいけん村岡湖沼館/和歌山市
2003-2022 調展 ハートフィールドギャラリー/名古屋市
名古屋とブリュッセルを拠点に活動

前期 旧林家住宅 後期 138タワー、ウッドデザインパーク



「memory soup」陶板画(2021)
食べることは生きていく為の最低限の行為の一つです。美味しいスープを食べる絵を描こうと思って描き始めましたが複雑な味のスープになりました。

森田 朋 Tomo Morita

名古屋在住
1996 名古屋造形芸術短期大学 洋画コース卒業
2020 わたし的一点 風麗景園 瑞穂亭/一宮市
2021 調展 Oギャラリー/銀座
調展 十一月画廊/銀座
2022 調展 HFART FIFTH GALFRY/名古屋

前期 旧林家住宅 後期 138タワー、ウッドデザインパーク

ツインアーチ138

―天空のギャラリー138―

ツインアーチ138は高さ138メートルを誇り、一宮市のランドマークとも言えるタワーです。尾張一宮真清田神社の参道に江戸時代にあった八市からその名が付けられました。高さ100メートルにある展望台を天空に見立て作品を展示するとともに、ライブペインティングも開催します。

【ライブイベント】

- ◆参加作家
加藤 K 伊藤 智代美(前期のみ) 北村 尚子 ナカムラ ミオ 松本 健士 森 大地
- ◆7/30(土) 13:00～
展望階 窓ガラス ライブペインティング
- ◆9/11(日) 12:00～
ライブペインティング



「O」油絵(平面から立体へシリーズ)キャンバスにスクラッチペインティング、顔料マジック、油性ペン
キャンバス作品二枚を繋ぎ繋ぎ、平面作品に立体性を付けたせました。

加藤 K K Kato

名古屋在住 美術家
1983 武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業
1995 名古屋市南区にK Art Market設立
2010 名古屋市南区にK Art Studio設立
2013 調展「紙の上の住手」(名古屋)イ・ギャラリー矢田(名古屋)
2019 調展「factory underground」のこざりニ(一宮)
2018〜2021 調展「造形芸術祭」瑞穂亭
2022 現在NPO法人 愛知アートコレクティブ 理事

前期 138タワー、ウッドデザインパーク 後期 旧林家住宅



「つらつら」八兵衛はデモンキーズだった。2022年 キャンバスにアクリルマボロシ列車に乗ったオコが寝てフルートを吹く…マスクの下から顔を出したネコがニヤと囁く…年初は…卓球だ。

松本 健士 Takeshi Matsumoto

神戸生まれ、kアートスタジオにて調展、調展、調展

前期 138タワー、ウッドデザインパーク 後期 旧林家住宅



Art Triangle Kisogawa

天正14年(1586)の大洪水により現在の流れとなった木曾川は、江戸時代より船による物流や往来、漁業など、人々の暮らしに欠かせない重要な川でした。

今回は、人々や文化が交错してきた流域にある特徴的な3施設を活用し、「交流」によって生み出される多様な表現がさらに次のつながりを結びつけられるよう、「木曾川アートトライアングル」として美術展を開催します。



「チャリネ」大田馬場」カンヴァスにアクリル絵の具、カラーグロ

森 大地 Daichi Mori

安城市在住 絵師
2011 「GELSA#15」/東京
2011 「デディカイトシュヴァンクマイエル」展/京都
2016 「珍獣派展」/Taiwan
2017 「For Beautiful Human Life」/愛知
2019 シトロエンcivライブペイント/愛知

前期 138タワー、ウッドデザインパーク 後期 旧林家住宅



作家写真 「花まつり」イラストボード、アクリル絵の具
縦210mmx横1188mm
ゆかいな花まつり気分をカラフルな色・模様で表現しました。

伊藤 智代美 Chiyomi Ito

一宮市出身 1990年名古屋造形芸術短期大学卒業
アートフィールドギャラリー(名古屋)を中心に作品発表のかわら、グラフィックデザイナー・イラストレーターとして活動しています。

前期 138タワー、ウッドデザインパーク 後期 138タワー



「Maribo ate 27 pancakes, Junbo ate 55, Sanbo ate 169 and Tiger ate more」ミクストメディア
今年の干支年(牛)に因んで私の大好きな牛とパンケーキの物語を題材に制作しました。

北村 尚子 Naoko Kitamura

名古屋在住 造形作家
1983-1985 名古屋造形芸術短期大学 ビジュアルデザインコース
2001-2004 BA Fine Art, Central Saint Martin College of Art and Design(U.K.)
◎展覧
1994年よりアートフィールドギャラリー(名古屋)を拠点に展覧
2016 「アリスのお茶会」(Ito's Gallery) 一宮市
2017 「フロムワンダーランド」(ギャラリードゥシーヌ 名古屋市)
2018 「サンキュー」(画廊 名古屋市)
◎ライブペインティング
2015〜2019 21.22 新宮ライブ(アートフィールドギャラリー-名古屋)
2015〜2019 ながくてアートフェスティバル(長久手市文化の家)

前期 138タワー、ウッドデザインパーク 後期 旧林家住宅



ウッドデザインパーク いちのみや - 紡 -

―木曾川の水辺を見つめて―
木曾川河畔に新しくできたグランピング施設「紡」。『今』を象徴するカフェ作品は、天空から歴史、歴史からこれからへの時間を紡いでくれます。



旧林家住宅

―時間と風と空間を感じて―
旧林家住宅主屋は、明治24年の濃尾大地震後の大正2年に建てられた建物です。これまでも空間を活用した美術展を開催してきました。木曾川から吹く風、鳥の音、床がささむ音、歴史に育まれた空間で、作品が語りかけます。



大塚 将司 Masashi Ohtsuka

江南市在住 美術家
愛知県立芸術大学 美術学部卒業
江南市美術協会会員 一宮市作家協会会員
2020 そこにある存在と記憶展/一宮市歴史民俗資料館 旧林家住宅 一宮市作家協会常設展/一宮市博物館
第251回記念それぞれの現在展/愛知芸術文化センター1階(宇)江南市美術協会/Home&niccoホール/江南市文化会館
しあわせのポジション展/一宮市歴史民俗資料館 旧林家住宅 一宮市作家協会常設展/一宮市博物館
第26回それぞれの現在展/愛知芸術文化センターE室(宇)江南市美術協会/Home&niccoホール/江南市文化会館

前期 138タワー、旧林家住宅 後期 138タワー、ウッドデザインパーク

「結れた実樹から生まれる命」インスタレーション
結れた実樹から生かす花―結れば―実樹―アクリル絵の具は花ごぼりと蒸気し。その実の姿を残したまま結らせていきます。しかし、そこから生まれるのはツバキ(鐘菜木)と呼ばれるように生命力です。次の命には必ず多くの花が咲きます。



水谷 一子 Hajimeko Mizutani

名古屋在住 ワイヤアート作家
名古屋造形芸術短期大学インターメディアコース専攻科修了
2021 「帳」/アートフィールドギャラリー
2021 「帳」/Enne
2021 「しあわせのポジション」〜日々夕陽の影からみえるもの〜/一宮市歴史民俗資料館前川崎旧林家住宅

前期 後期 138タワー、旧林家住宅、ウッドデザインパーク

= 美濃路みちおこしプロジェクト =

木曾川アートトライアングル

交错するアート 一日々の景色から見えるもの

2022.7/30(土) ▶ 10/10(月・祝)

前期 7月30日(土)〜9月4日(日)

後期 9月6日(火)〜10月10日(月・祝)

※休日は各会場によって異なります。
企画・展示アドバイザー/美術家 大塚将司 アートフィールドギャラリー 藤崎江子 ワイヤアート作家 水谷一子
企画主任/美術路×木曾川ミュージアム 一宮市歴史民俗資料館 協力/園芸木曾三川公園 138 タワーパーク ウッドデザインパーク いちのみや - 紡 -